

1 本研究プロジェクトの概要

福野 光輝

(文化システム専攻心理・情報領域担当)

本特集は、平成25年度山形大学人文学部「山形市における安心・安全に関する学際的研究」プロジェクトの成果をまとめたものである。本研究プロジェクトでは、山形市における安心や安全に関する諸問題を、地理学、人間情報科学、社会学、心理学といった4つの学問的視点から多角的に検討し、問題解決のための方策を考察した。

なぜ安心・安全か

近年、防災や防犯意識の高まりを受けて、暮らしの安全性に対する関心が強まっている。安全な生活を送るためには、個々人がそうしたリスクに備えることも必要だが、地域として安全性を向上させるための取り組みについて考え、実践していくことも欠かせない。さらに、山形大学小白川キャンパス周辺においては、防災情報の入手や災害時の避難、子育てなどにおける共助の問題、山大周辺の交通安全、山大生と周辺住民との利害の不一致など、安心や安全にまつわる特有の問題も存在する。その意味で、山形大学小白川キャンパス周辺における安心・安全の問題は、地域のなかに存在する問題を学際的に考察するという側面をもつだけでなく、山形大学自体が周辺地域の安心・安全に影響を及ぼしうる存在であり、それゆえ山形大学の取り組み次第によっては、周辺地域の安全性向上に大きく貢献できる側面をもつと考えられる。それゆえ、山形大学の地域貢献を考えたとき、安心・安全の問題は重要な課題の1つとして位置づけられる。

また、安心や安全といった社会的にも重要な問題には、多様な観点から接近することが問題解決を促進するだろう。この点で、地理学と人間情報科学からは自然科学もしくは工学的なアプローチが、社会学と心理学からは社会科学的なアプロー

チが可能であり、安心・安全問題を考察するうえで有用だと考えられる。

なぜ小学生の保護者か

その地域が安全であるか、あるいは安心して暮らせるかによって最も影響を受けるのは、子どもや高齢者であろう。その地域が安全であるというためには、少なくとも子どもや高齢者が安心して暮らせる環境でなければならない。とくに子どもの安全に関しては、保護者がその責任を担うことも多く、かれらは地域の安心・安全を最も意識させられる立場におかれている。また、保護者は子育てを通して、地域の人々との結びつきも生じやすく、地域社会への関与も強化されやすい。それゆえ、子どもをもつ保護者の意見や考えは、安全な地域づくりを進めるうえで、重視すべき声であるといえる。

こうした考えから、本研究プロジェクトでは、山形大学小白川キャンパス周辺に位置する山形市立第一小学校、山形市立第五小学校、山形市立第八小学校の保護者を対象に、日常生活や災害時の安心・安全感、防災情報の入手と災害時の避難意識、山形大学や山大生との関わりについてたずねる質問紙調査を実施した。

本研究プロジェクトの意義

本研究プロジェクトの意義はおもに2つある。第一に、小学生保護者の安心および安全意識の実態を把握することにより、学校関係者と大学との間で情報が共有される。このことは、安全性向上にむけた論点整理に役立つ。具体的な取り組みとして、2014年3月に、本調査結果を第一次報告書としてまとめ、3小学校の全家庭に配布した。また、本研究プロジェクトのメンバーが各小学校に

1 本研究プロジェクトの概要（福野 光輝）

出向き、調査結果について説明したところ、ある小学校では、災害時に助けを求めることができる知人数のデータは、災害時の児童への対応を考える参考になったと評価された。別の小学校では、調査結果から、災害時に想定以上の人がその小学校に避難してくることがわかり、その小学校を会場にして開かれている避難所運営委員会での情報提供につながった。この過程で、行政とのつながりもうまれた。さらに、本調査結果はいくつかのメディアにも取りあげられ（河北新報, 2014；山形大学広報誌みどり樹, 2014；山形新聞, 2014）、一般の人々に対しても情報提供が実現した。

第二に、安全な地域づくりのために、山形大学として何ができるかを考察する契機になった。具体的には、本調査結果の第一次報告書を2014年4月に地域教育文化学部および理学部の1年生に配布した。また、「スタートアップセミナー」において、自転車の危険運転などに考えさせるワークショップが導入された。また、山形大学グラウンド南側の路上駐車に関して、小白川キャンパス事務部学生課と情報交換を行う機会があった。

研究体制

本研究プロジェクトは、山形大学人文学部人間文化学科地域・人間コースに所属する福野光輝（心理学）、山田浩久（地理学）、阿部晃士（社会学）、山根純佳（社会学）、本多 薫（人間情報科学）、渡邊洋一（心理学）によって企画された。また、山形大学人文学部より平成25年度プロジェクト研究支援課題「山形市における安心・安全に関する学際的研究」として採択され、研究費の助成を受けた。記して感謝いたします。

引用文献

河北新報（2014年4月3日朝刊）「児童保護者「災害が不安」わずか11%：山形中心部で山形大が調査」

山形大学広報誌みどり樹（2014年夏号、第60巻）
「YAMADAI TOPICS 人文学部：小学生の保

護者を対象に安心・安全意識を調査」
山形新聞（2014年4月20日朝刊）「「共助」高いニーズ：山形で山形大 防災などテーマ 住民調査」